

【学校教育目標】

～明るい未来を拓く～

社会に自立する生徒の育成

【校訓】力強く・心豊かに たゆみなく

学校HP <https://www16.sapporo-c.ed.jp/kamishinoro-j/>

発行者：校長 山崎 武司

「失敗」を受け入れる強い心

学校長 山崎 武司

皆さん、冬休みは充実した毎日を過ごせましたか。2学期の終業式で、私は皆さんに「短期間で達成できそうな小さな目標」を立て、それを振り返ることに挑戦してほしいとお話ししました。「目標を立てることよりも、忘れずに振り返ることの方が難しい。だからこそ冬休みにやってみてほしい」と伝えましたが、実践できたでしょうか。皆さんがどのような目標を掲げ、どう過ごしたのか、ぜひ聞いてみたいと思っています。

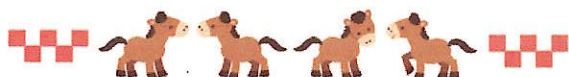
さて、いよいよ3学期が始まりました。3学期は1年の「まとめ」の時期であり、これまでの取り組みの成果が形になって現れる時期です。何かに挑戦すれば、必ず「成功」か「失敗」という結果がついてきます。そして、それに応じた感情が生まれます。特に3年生の多くは、間もなく高校入試という大きな節目を迎えます。合格という目標を達成して喜ぶ人もいれば、思うような結果が出ず、悔しさや否定的な感情に包まれる人もいるかもしれません。

これまで一度も失敗したことがないという人は、一人もないはずですが。「失敗は成功の基」という言葉がありますが、これは単なる慰めの言葉ではありません。「次に成功するために、失敗という壁を押し返し、立ち上がる強さを育てるチャンスを得た」という意味です。失敗を経験することで、私たちはより良い成果を出すための知恵を学び、精神的な粘り強さを養うことができるのです。

大切なのは、うまくいかなかった時に「なぜだろう」と原因を考え、改善することです。恥ずかしさ、無力感、悔しさ……。そうした心に重くのしかかる感情を、逃げずに受け止め、乗り越える。そのプロセスこそが、皆さんをより大きな成功へと導いてくれます。

振り返る習慣がなければ、失敗からも成功からも学ぶことはできません。まずは目標や計画をこまめに振り返り、失敗を冷静に受け止め、改善策を考えられる「強い心」を育ててください。失敗を言い訳でごまかしたり、認められなかったりする心には、本当の成長はありません。自分の失敗を正視できる強さと、次の成功へ向かう粘り強さを、この3学期で身に付けてほしいと願っています。

1・2年生にとっては、学年のまとめ。3年生にとっては、義務教育9年間の締めくくりです。結果そのものだけでなく、そこに至るまでの「過程（プロセス）」をしっかりと振り返り、より粘り強く努力できる人へと成長することを期待して、私からの挨拶といたします。



拡大チャレンジタイム

11月7日に、「総合的な学習の時間」の一環として、各学年で拡大チャレンジタイムが実施されました。1学年は10名のいろいろな職業の講師の方々をお迎えして交流しました。2学年は、篠路・百合が原地区を中心とする23か所の事業所にお世話になり、職場体験を実施しました。3学年は、大学訪問として6つの大学を実際に訪れ、見学や体験をしました。

1学年 働くおとなトーク



2学年 職場体験



3学年 大学訪問



どの学年の生徒も、日頃の授業で見せる顔とは違い、自分の将来について自分ごととして考える真剣な表情を見せていました。今後の進路を考える上で、この一日が何かのきっかけになることがあるかもしれません。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。来年度以降も、ぜひ地域の子どもたちのために、ご協力いただけると幸いです。



編集後記 季節外れの雨が降ったと思ったら、毎年恒例「帳尻合わせ」の大雪がやってきた。朝を迎えて、玄関前に転がる除雪車の残した雪の塊が、こちらを見て「ニヤリ」としている気がしてならない。今年はあと何回、雪かきという名のスポーツに汗を流すだろうか。(小)